

シンポジウム

裁判員裁判のインパクト -実施5年後の現状と今後のあり方-

裁判員裁判の実施から5年が経過し、裁判員を務めた市民は5万人を超えています（補充裁判員を含む）。

他方、裁判員裁判の実情に触れ、裁判員の経験を身近に聞く機会は、意外にありません。裁判員経験者のほとんどは、その経験を「よかった」と回答しますが、ストレスを抱える人もいます。

裁判員裁判は、どのようなポテンシャルを持ち、司法と社会にどのようなインパクトをもたらし、裁判員は、どのようなことを体験し、負担に感じるのでしょうか。

このシンポジウムでは、裁判員経験者、裁判員裁判を担当した実務法律家や大学生と、関心を持つ方々とともに、裁判員裁判の現状を探り、そのインパクトと、今後のあり方を考えます。

2014年11月3日（月・祝）
13:00—16:00

専修大学神田校舎 7号館 3階 731号教室

※入場無料、事前申込不要 学内外問わず参加歓迎



第1部 報告

飯考行（専修大学）

「裁判員裁判のポテンシャル - 大学を活かした展開の提案」

山本衛（弁護士、東京弁護士会）

「裁判員裁判を担当して - 司法へのインパクト」

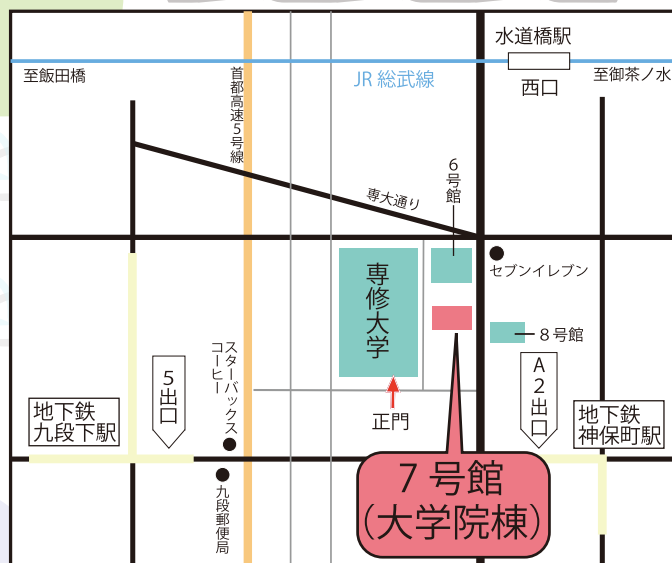
田中洋（裁判員経験者、Lay Judge Community Club (LJCC)）

「裁判員を経験して - 社会へのインパクト」

第2部 パネルディスカッション

裁判員経験者（計3名、LJCC）、山本衛（弁護士）、那須弥生（専修大学生、一般社団法人裁判員ネット）など

コーディネーター：飯考行（専修大学）



<問い合わせ>

飯考行（いい・たかゆき、専修大学法学部准教授）

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8 専修大学法学部

Tel : 03-3265-6288 E-Mail : iit@isc.senshu-u.ac.jp

主催：専修大学法学部

*前週の10月27日（月）13:00-14:30に、同じ会場で、川畑恵子（社会福祉法人大阪ボランティア協会「裁判員ACT」裁判への市民参加を進める会）講話「市民参加と協働の視点から裁判員裁判を考えると」が行われます。あわせてご来場下さい。